

福島を伝える 福島で考える



会場／
福島県立博物館
観覧料・参加費／
無料

写真／岡部昌生フロッタージュプロジェクト
岡部昌生「津波による擦過痕が刻まれた土間の遺構フロッタージュ」風景
(南相馬市小高区塚原2014.05.23)

会場／
福島県立博物館
観覧料・参加費／
無料

写真／飯館村綿津見神社大杉の断面

6年目の



はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展 アートで伝える 考える 福島の今、未来展 at Fukushima Museum

第1会場【常設展部門展示室歴史・美術】 2017年2月4日(土)～4月11日(火)
第2会場【企画展示室】 2017年2月11日(土・祝)～4月11日(火)
観覧時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
*毎週月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日、休館



トークセッション「アートでつなぐはま・なか・あいづ 震災とアート、そして対話」

日時：2月23日(木) 13:30～15:00
講師：赤坂憲雄 (福島県立博物館長／はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会委員長)
川延安直 (福島県立博物館専門学芸員／はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局)
会場：福島県立博物館 講堂 申込：不要

ギャラリートーク

日時：2月26日(日) 13:30～14:30 / 3月26日(日) 13:30～14:30
会場：福島県立博物館 企画展示室 申込：不要

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会
平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2016



はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトとは…
福島県立博物館が福島県内の大学、文化施設、NPO等との連携により2012年から実施しているアートプロジェクト。はま(福島県の太平洋側)、なか(東北新幹線、東北自動車道が貫く福島県の中央部)、あいづ(新潟県に隣接する福島県の山間部)で展開する活動を通して、福島の文化・歴史・自然の豊かさを再発見すること、福島が抱える課題を共有し共に考える場を生み出すことを目的としています。2016年度は、11のプロジェクトを実施。
詳しくはこちら → hamanakaaizu.jp

■お問い合わせ
はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 (福島県立博物館内)
TEL: 0242-28-6000 (福島県立博物館代表)
FAX: 0242-28-5986 (福島県立博物館内)



震災遺産展～6本の年輪～ 日時：2017年2月11日(土・祝)～4月11日(火)

会場：福島県立博物館 企画展示室
観覧時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
*毎週月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日、休館



3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験展示 日時：3月10日(金)～3月12日(日) 10:30～12:00 / 13:30～15:00

ナビゲーター：鹿納晴尚氏
定員：各回20名(開始30分前から整理券配布) 体験約5分
3Dポイントクラウドデータとして保存した福島県に所在する「震災遺構」を、最新技術MRによる3次元バーチャル映像で体験します。
*MR=複合現実(Mixed Reality)。仮想現実と現実世界をリアルタイムで融合させる技術。
会場：福島県立博物館 企画展示室 申込：不要



トークセッション 「県外避難者のいま」 日時：3月23日(木) 13:30～15:00

講師：赤坂憲雄 (福島県立博物館長／ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会委員長)
ゲスト：渡邊浩二氏 (地域活動サポートセンター 柏崎)
筑波匡介氏 (中越沖地震メモリアル「まちから」)
会場：福島県立博物館 講堂 申込：不要

主催：ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会
助成：平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
特別協力：東北大学総合学術博物館
グローバル安全学トップリーダー育成プログラム
みちのく震録伝

■お問い合わせ
ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会事務局
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 (福島県立博物館内)
TEL: 0242-28-6000 (福島県立博物館代表)
FAX: 0242-28-5986 (福島県立博物館内)

ふくしま震災遺産保全プロジェクトとは…
東日本大震災を地域の歴史として共有し、次世代に伝えることを目的に2014年度から活動を進めています。震災によって生じたさまざまな物や出来事を「震災遺産」として位置づけ、調査・収集活動やアウトリーチ事業などを展開しています。
構成団体：相馬中村層群研究会、南相馬市博物館、双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、(公財)ふくしま海洋科学館、いわき市石炭・化石館、いわき自然史研究会、福島県立博物館





はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展

アートで伝える 考える 福島の今、未来展 at Fukushima Museum

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、2012年から福島県立博物館が福島県内の文化施設、大学、NPO等と行っているアートプロジェクトです。

福島県の文化や自然の豊かさの再発見と、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故以降に福島がおかれた状況の文化的アプローチによる共有と発信を目的としています。本年度は、これまでの活動成果を通じた発信の重要性を捉え、過去・現在・未来の福島を伝え、福島が抱えた課題を広く日本の問題として共有しようとする「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」を各地で開催しています。今年度第5回の成果展は福島県立博物館で開催します。

福島に真摯に対峙したアーティストの活動から生まれた作品が伝える、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の記憶。そしてかけがえのない福島の美しい自然や人々の暮らし、多様な文化。それらは、巨大災害や巨大大事故をもたらす地域文化への影響について、そして未来に伝えたい守るべき福島の姿について私たちに問いかけています。この機会にぜひ多くの方にご覧いただき、福島を伝え、福島で考える場となればと願っています。



飯館村の記憶と記録プロジェクト 岩根愛「Island in my mind Masao Nagasho, litoi-Oodaira, litate, Jun.2015」



夢の学び舎ーなみえ学校プロジェクト 赤間政昭「浪江町立津島小学校(本校) 撮影風景(2016.11.24)」



夢の学び舎ーいわき学校プロジェクト 豊間ことばの学校 講師:玉井夕海 好間土曜学校 講師:中津川浩章



復興ダルマプロジェクト 山本伸樹「福興ダルマ」



福島写真美術館プロジェクト 千葉奈穂子「浜辺のまち」



福島写真美術館プロジェクト 赤坂友昭「山で生きる お盆の送り火」



福島写真美術館プロジェクト 土田ヒロミ「願う者は叶えられるか」



暮らしの記憶プロジェクト 安田佐智種「みち<未知の道>」



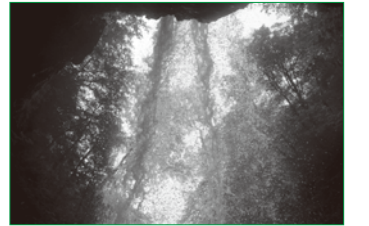
地域の民俗の記憶プロジェクト 高杉記子「Fukushima Samurai」



福島写真美術館プロジェクト 片桐功敦「Sacrifice」 花:薔薇 コスモス 向日葵 芙蓉 他 撮影地:浪江町請戸



福島写真美術館プロジェクト 村越としや「牡丹平」



福島写真美術館プロジェクト 本郷毅史「水源域・福島」



黒塚発信プロジェクト 「KUROZUKA闇の光」 主演:館形比呂一、映像監督:増山和信 企画・美術:渡邊晃一



消滅した集落名が書かれた徳利



震災時刻で停止した看板時計



津波で被災したバトカーのドア



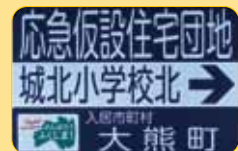
避難所非常食のダンボール



津波で流された郵便ポスト



いわき市豊間中学校体育館の時計



会津若松市内の仮設住宅案内板



フジツボが付着した屋根瓦



旧相馬女子高校の避難所で書いた「みんなの夢」



東京電力女子サッカー部マリーゼの mascot「マリちゃん」

ふくしま震災遺産保全プロジェクトアウトリーチ事業 「震災遺産を考えるⅢ」会津セッション

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本震災を「歴史」としてとらえ、震災によって生じたことを未来に伝えていく活動をしています。そのため、震災が生み出したモノやバシヨに着目し、これらを「震災遺産」と呼んで調査・保全に取り組んでいます。

地震、津波、原発事故を直接伝える資料や、これらのダメージによって引き起こされた、救助、避難、支援、除染、復興などのさまざまな局面に関する資料もふくしまの震災を語る上で大切なものです。

さらに、震災によって失われた日常すらも、今となっては遺産としてとらえるべきなのかもしれません。

展示する資料は震災の断片でしかありません。しかし、それらをつなぎ合わせ、今も生きるふくしまの樹木に刻まれた6本の年輪をしっかりと記録していくことが大切だと考えます。